

正誤表

書名：Rによるベイズ統計分析（照井伸彦）初版第1刷

頁：10、下から8行目

誤：となり、 $I(\pi)$ は

正：となり、 $I(\pi)$ は、**まず**

頁：10、下から6行目

誤：と求められる.

正：と求められ、

頁：31、下から3行目

誤： $p(Y|\mu, \sigma^2) =$

正： $p(y|\mu, \sigma^2) =$

頁：74、9行目

誤：パラメータの前領域

正：パラメータの**全**領域

頁：79、10行目

誤： $= \bar{D}(\theta_k) + p_k$ (6.26)

正：**これを削除して式番号(6.26)を1行上へ移動**

頁：79、下から5行目

誤： $D(\bar{\theta}_k) = \frac{1}{N} \sum_{j=1}^N (-2 \log p(y|\bar{\theta}_k))$

正： $D(\bar{\theta}_k) = -2 \log p(y|\bar{\theta}_k)$

頁：79、下から3行目

誤：AICとの対応では

正：AICとの対**比**では

頁：80、上から 2-6 行目を下記に修正

正：が得られる．ここで $\chi_{p_k}^2$ は自由度 p_k のカイ 2 乗分布に従う確率変数であり、また

$L = \log p(y|\theta_k), L_{\bar{\theta}_k}' = 0$ を利用している． $E(\chi_{p_k}^2) = p_k$ となることから、上式の両辺の期待値をとると

$$E[D(\theta_k)] = D(\bar{\theta}_k) + p_k \quad (6.31)$$

となり、左辺の推定値として $\bar{D}(\theta_k)$ を利用して有効パラメータ数(6.28)式との対応関係が得られる。

頁：116、16 行目

誤： $+\varepsilon_t$ (9.7)

正： $+v_t$ (9.7)